

コード	502031301
記入日	H23.6.10

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川 義男
担当者	高木 和枝

事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	図書館管理運営事業
----------	-----------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	502	施策名称	生涯学習の充実	項コード	5
基本事業コード	50203	基本事業名称	学習基盤の整備	目コード	3
事務事業コード	5020313	事務事業名称	図書館管理運営費	細目コード	102
関連計画	法令・条例規則等		新上五島町図書館条例		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 住民		(対象指標1)	23,210人 (H22.4.1現在)			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・適正な維持管理を行い、イベントを開催した。 →保守点検箇所 4箇所 →各種イベント開催回数 10回 →開催日数 10日	*****	*****	*****	保守点検箇所4箇所+計画した保守点検箇所4箇所	*****
		① 保守点検箇所	4箇所	100%	4箇所	平成22年度
		(達成率分析)	計画どおり実施した。			
		*****	*****	*****	イベント開催件数10件+計画した開催件数8件	*****
② イベント開催件数	10件	125%	8件	平成22年度		
(達成率分析)	予定の計画を上回るイベントを、開催することができた。					
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
・町民がいつでも、どこでも、誰でも図書に親しみ、生涯学習の拠点として、幼児から高齢者まで利用できるサービスの実施、図書の充実を図る。		*****	*****	*****	開館した日数287日+開館すべき日数290日	*****
		① 開館した日数	287日	98.9%		平成22年度
		(達成率分析)	蔵書点検を行ったため、計画どおり実施ができなかった。それを除いては、計画どおり実施できた。			
		*****	*****	*****	利用者数35,797人+計画した利用者数	*****
② 利用者数	35,797人	97.8%	36,600人	平成22年度		
(達成率分析)	前年度利用者数より目標利用者数を下げて設定したが、利用予定者数を下回ってしまった。今後は、利用者が見込まれるイベント等を企画して、多くの住民に利用される図書館を目指す。					

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 箇所	24	24	20	4	4					
	② 件	83	85	75	8	10					
成果指標	① 日	1,686	1,683	1,396	290	287					
	② 人	165,810	165,007	129,210	36,600	35,797					
総事業費 C (A+B)	千円	204,595	205,819	175,752	28,843	30,067					
直接事業費 A	千円	200,395	201,619	172,252	28,143	29,367					
人件費 B	千円	4,200	4,200	3,500	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.6	0.6	0.5	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	204,595	205,819	175,752	28,843	30,067					

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	町の施設であり、当然町が維持管理を行うものである。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	町の施設である限り、町が維持管理を行っていく必要がある。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	町有施設の維持管理であり、適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	適正な維持管理はできているが、前年度と比較して利用者数は減少している。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	図書館主催のイベント開催を増やすことにより、利用者増加が見込める。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	維持管理を行わなければ施設が維持できない。また、住民の読書活動に多大の支障をきたす。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	住民の利便性を考慮し、合併前の地区ごとに施設を設置しているため、統合はできない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	活動を行うための必要な部分を計上しているため、これ以上の削減はできない。
	・人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	限られた人件費の中で効率を上げるよう努力を図っているため、これ以上の削減はできない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	条例に沿っており、適正である。

改善

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	図書館主催のイベント開催を増やすことにより利用者増加が見込まれ有効性を上げることができる。
		効率性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	町民の読書活動を充実させるとともに、施設の使用に支障がないよう維持・管理に努めること。
		効率性	経費の執行については適正に行い節減に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続
		●		事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。